

学習内容報告書

学校名	富山県立高岡高等学校
授業者	課題研究Ⅱ 担当教諭

1. 単元計画

1-1. 単元名

課題研究Ⅱ (SDGs 及び富山県内の課題に関するテーマ)

1-2. 学年

2年探究科学科

1-3. 教科

総合的な探究の時間 (人文社会科学科・理数科学科)、課題研究 (理数科学科)

1-4. 単元の概要

SDGs や富山県内の様々な課題の中から興味を持ったものを研究テーマに設定し、グループで調査・研究を行って、その結果をポスターセッションで発表し、研究集録にまとめる。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- ・SDGs や富山県内の現状について知り、課題を見つけて、研究テーマを設定する。
- ・研究の過程を通して、探究する態度と能力、コミュニケーション能力を育む。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・問題発見力、探究心、論理力 (結果から論理的に結論を導く能力)、発想力。
- ・情報収集や情報リテラシーなどのスキル。
- ・計画を立てて、実験・観察・調査を遂行する能力。
- ・研究成果をポスターや論文にまとめる能力。
- ・ポスターセッションでのコミュニケーション能力 (プレゼンテーションスキル、疑問力、質問力)。

1-7. 単元の展開 (前 53 時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ～ 10	ガイダンス ・興味あるテーマごとにグループ分けをし、一年間の研究の流れと評価観点を確認する。 情報収集・研究課題の設定 ・研究課題の案を出し合い、絞りこんでいく。 ・課題設定報告会資料を作成する。	・人文社会科学科・理数科学科2クラス 80名を混合にして、3～5名のグループを17班作る。 ・指導教諭が1人1グループを担当し、助言する。
11 12	研究課題設定報告会 ・3つの教室に分かれ、1班ずつ課題設定理由や研究計画を発表し、質疑応答する。	・質問を促す。 ・大学教授から指導助言をもらう。 ・自己評価・相互評価 (評価表)
13 ～ 21	調査研究 ・書籍やインターネット等での調査 ・アンケート・フィールドワーク・実験等の実施 ・ポスターを作成し、発表練習を行う。	・課題設定報告会の振り返りをさせ、得られた助言や評価を基に、研究の方向性を検討する手助けをする。 ・ポスターや発表練習をチェックし、改善のポイントを示す。質問を予想し、それに備えるように助言する。

22 ～ 25	<p>中間発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッション形式 ・参加者は、1・2年人文社会科学科・理数科学科生徒、本校教員、大学教授（通常は文化祭と同時開催で、他の生徒や保護者、地域の方にも来ていただく。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表約5分＋質疑応答（1セット15～20分） ・質問を促す。 ・大学教授から評価・指導助言をもらう。 ・自己評価・相互評価（評価表）
26 ～ 40	<p>調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍やインターネット等での調査 ・アンケート・フィールドワーク・実験等の実施 ・ポスターを作成し、発表練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表会の振り返りをさせ、得られた助言や評価を基に、研究の課題や改善点について考えさせる。 ・ポスターや発表練習をチェックし、改善のポイントを示す。質問を予想し、それに備えるように助言する。
41 ～ 46	<p>三校合同発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県内の3つの高校が一堂に会し、ポスターセッションを行う。 ・各校の代表班がステージでプレゼンテーションを行い、質疑応答する。 ・参加者は、三校の1・2年人文社会科学科・理数科学科生徒、教員、大学教授（通常は保護者や一般の方も入場可。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表約5分＋質疑応答（1セット15～20分） ・質問を促す。 ・大学教授から評価・指導助言をもらう。 ・自己評価・相互評価（評価表）
47 ～ 49	<p>三校合同発表会の振り返り・研究のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターや発表原稿を修正・改善し、プレゼンテーション力をさらに磨く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三校合同発表会の振り返りをさせ、得られた助言や評価を基に、さらに改善する手助けをする。
50 ～ 51	<p>校内発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者は、1・2年人文社会科学科・理数科学科生、2年普通科生徒、本校教員、大学教授 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表約5分＋質疑応答（1セット15～20分） ・質問を促す。 ・大学教授から評価・指導助言をもらう。 ・自己評価・相互評価（評価表）
52 ～ 53	<p>研究集録作成・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究内容を、4～6ページ程度でまとめる。 ・一年間の取組について自己評価し、他と共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三校合同発表会の振り返りをさせ、研究の今後の課題について考えさせる。 ・論文の基本的な形式を指導する。 ・一年間の研究を通して考えたこと、得たこと等を各自が振り返り、他と共有する場を設ける。

ポスター一例

814

ハワイの海の日移移民
～ツナ缶会社のエピソードから～

富山県立富山大学 人文社会科学科 理数 大槻 浩介 津島 雅典

第二次世界大戦中、米国に多くの日系移民を輩出した。一方でハワイでは日本の文化が根付かなかった。このことと競争を勝ち、勝つ中でツナ缶会社が日系移民の活動の中心となり活躍をしたというエピソードを中心に、その活動がハワイで日系移民の活動が広がったことと関係性を考察した。

1) 移住のルール
富山県立富山大学 人文社会科学科 理数 大槻 浩介 津島 雅典

2) ハワイで活動した理由
富山県立富山大学 人文社会科学科 理数 大槻 浩介 津島 雅典

3) ハワイで活動した結果
富山県立富山大学 人文社会科学科 理数 大槻 浩介 津島 雅典

4) ハワイで活動した意義
富山県立富山大学 人文社会科学科 理数 大槻 浩介 津島 雅典

815

ハワイで活動が盛んになったのはなぜか？

富山県立富山大学 人文社会科学科 理数 大槻 浩介 津島 雅典

1) ハワイで活動した理由
富山県立富山大学 人文社会科学科 理数 大槻 浩介 津島 雅典

2) ハワイで活動した結果
富山県立富山大学 人文社会科学科 理数 大槻 浩介 津島 雅典

3) ハワイで活動した意義
富山県立富山大学 人文社会科学科 理数 大槻 浩介 津島 雅典

2. 学習活動の実際（ハワイの海の日系移民～ツナ缶会社のエピソードから～に関する研究テーマを設定した班）

2-1. 単元における位置づけ

単元 53 時間中の 47～53 時間目

2-2. 本時の目標

- ・三校合同課題研究発表会での発表後、自分たちの研究内容を振り返り、自己評価や他校の生徒、大学教員からの質疑応答を受け研究を深める。
- ・校内発表会後、研究集録をまとめることで、自分たちの課題研究への取り組みについてメンバーと話し合い、振り返りを行う。
- ・更なる研究に向かうヒントを得る。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p><三校合同課題研究発表会> 3時間</p> <p>毎年、県内探究科学科設置の3校（富山高校、富山中部高校、高岡高校）の探究科学科1, 2年生（480名）が一堂に会し、各校の2年生が取り組んだ課題研究のポスターセッションを行っている。各学校の教員、大学教員、生徒同士の質疑応答が活発になされた。生徒たちはその活動を自分たちの研究について新たな視点を得ることができ、更に考察検証を深めることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表に向けてのスケジュールについて確認をさせて、研究が計画的に進むように注意する。 ・ポスター作成や発表の仕方などを確認させる。（評価） ・話し合いに積極的に参加し、意見を出したか。 ・事前準備において、自分が担当する仕事に責任を持って取り組んだか。自分で考えて、よりよいものになるよう工夫したか。
<p><校内発表> 2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三校合同課題研究発表会の振り返りや得られた評価表のアドバイスを基に、最終発表会である校内発表に向けて、自分たちの研究に更に取り組む。 ・他校の先生方や生徒、大学教員の感想やアドバイスにとっても刺激を受けていた。 ・班内での話し合いも更に行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価表や意見、アドバイスなどを生徒と共有し、校内発表までに何ができるか、研究をどのように進めていくかを確認。（評価） ・状況に柔軟に対応して、積極的に活動に参加しているか。 ・研究について深められているか。
<p><研究集録> 2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究について研究集録を協働して執筆。 ・自分たちの研究をしっかりと振り返る事ができた。 	<p>（評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報を整理し、考察して課題について検証が行われたか。ある程度の結論を導き出せたか。 ・一連の活動を振り返り、問題点を見つけ、改善策を考えられたか。

3. 今回の活動の自己評価

- ・課題設定報告会、中間発表会、三校合同課題研究発表会、校内発表会と発表を重ねるごとに、たくさんの感想や意見をいただき、生徒たちが考察を深めていくことができた。また、考察を深めていく中で更なる課題を見つけ、そのことについて新たに情報を収集したり、今までの情報や資料を新たな視点で見

ることができたりした。生徒たちは課題研究を通して探究的な学びを体験し、成長したと思う。また、校外や県外の発表会にも積極的に参加するようになり、自主的に学びに向かう態度がついたと思う。

4. 今後の課題

- ・課題研究では課題の設定が一番大事な部分になってくる。生徒たちは2年生になってから自分たちで課題を探し始めるのだが、もう少し開始を早くして、春休みをもっとうまく活用できればと考えている。また、発表の機会も生徒の成長に大きく関与していくポイントになると実感した。今後は、さまざまな発表の機会を積極的に生徒に提供できるようにしていきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・実際には、授業時間以外の放課後や週末も活用して、生徒は自発的に準備を進めている。



「とやま探究フォーラム」での発表の様子



ミライシコウ金沢での発表1



ミライシコウ金沢での発表2